

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、第三者評価の資料となります。第三者評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、第三者評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームたけだ遊友館
(ユニット名)	(あさひ)
所在地 (県・市町村名)	兵庫県朝来市
記入者名 (管理者)	植木 直子(管理者兼計画作成担当者)
記入日	平成21年 2月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・家族との絆、その人らしさ、家庭的な暮らし、地域とのつながり、安心・安全を5つの柱とした理念を掲げている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・新任職員や中途採用の職員に対して理念の説明を行っている。 ・あったかサポート実践運動にて理念に添った支援についての評価項目を取り入れ、毎月自己点検している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・家族には、契約時に重要事項説明書の中で説明している。 ・家族懇談会、運営推進会議で説明する。 ・リーフレットにも記載し、入居希望者にも伝えるようにしている。 ・広報誌・ホームページに掲載予定である。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・隣接する健康プラザ棟の設備を利用している。 ・散歩の時に出会った方にあいさつをしている。 ・買い物に出かけた際も挨拶を交わすようにしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・地域の行事(秋祭り、とんど)、イベントなどに参加している。 ・地元保育園との交流の機会を持っている。 ・地域交流もちつき大会を開催し、地元住民20名ほどの参加があった。 ・地元の小学校のリサイクル活動(ペットボトルの収集)に参加する予定がある。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・認知症の理解を深めるために出張勉強会などを計画化していく。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価及びサービス評価の意義についてユニット会議で説明し、全員で自己評価に取り組んだ。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・9月から2ヶ月に1回、地区区長、民生委員、市職員、家族代表・感染症対策や行方不明時の対応など、積極的な意見交換があり、サービスの質の向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市担当者に対して毎月利用状況の報告を行っている。 ・市担当者がGHの行事に参加している。 ・困難ケースなどは地域包括支援センターに相談するなど専門機関との連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・管理者・計画作成担当者は、地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について学んでいる。 ・家族からの利用の相談に対応したケースもある。 ・日々雇用職員に対しての研修を実施する予定である。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・管理者は広域内の研修、計画作成担当者は外部研修で学ぶ機会を持った。 ・全職員に対して高齢者虐待防止にかかるアンケート調査を実施し、意識の啓発を図った。また結果を踏まえて話し合いを持った。 ・あったかサポート実践運動のなかで具体的な評価項目を設けて、毎日自己点検をした。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・家族に対しては十分な説明を行っている。特にサービスの終了や事故発生時の対応、個人情報保護、重度化した場合における対応については詳しく説明するようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情受付窓口を設置し、福祉サービスに関する苦情・相談手順を定めている。 ・日々の会話の中から意見などを吸い上げるようにしている。 ・意見箱の設置について検討する。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・生活状況連絡表(生活面・健康面を記載)にて定期的に家族に報告している。面会時にも随時報告している。 ・金銭管理状況は毎月家族に報告している。 ・開設初年度であり職員の異動はなかった。	○ ・職員の異動や退職については広報誌や家族連絡会を利用して報告していく。また面会時にも個々に報告する。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時には必ず家族の話聞くようにしている。 ・重要事項説明書に苦情受付機関を明記している。 ・家族懇談会で出された意見を運営に活かしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・採用半年後に所長または課長との1対1の懇談会を実施し、日頃感じていることを話合う機会を持った。そこで出た意見を運営に反映させている。 ・管理者はユニット会議にて職員の意見を聞く機会を持ち、日々考えていることや疑問に思うことはその都度話してもらうようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・夜勤はユニット毎に配置し、緊急時に対応できる体制となっている。 ・職員の急な休みにも対応できるシフトとなっている。 ・利用者の要望に対してできるだけ対応するよう努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・今年度は開設したばかりで異動はなかった。 ・退職者は1名あり、利用者にはさりげなく伝えた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・法人内に人材育成基本方針があり、正規職員・嘱託職員は法人内外で研修を受ける機会がある。</p> <p>・日々雇用職員に対しては開設前に新任研修を行ったが、それ以後の研修は十分でない。</p>	<p>○</p> <p>・日々雇用職員に対する外部また職場内の研修を積極的にすすめる。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・新任職員研修で近隣のGHで現場実習を実施した。</p> <p>・近隣のGHとは必要に応じて情報交換を行っている。</p> <p>・近隣のGH主催の研修会に参加している。</p> <p>・市内同業者間のネットワークづくりが検討されている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・その都度相談にのり、助言をしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・法人内に人事考課制度があり、それにのっとり行ってる。</p> <p>・資格取得や正規職員採用試験にも積極的に受験している。</p> <p>・資格保持者には資格手当に支給または時給の上乗せをしている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・初回相談や入居前面接時にはできるだけ話を聞くようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・初回相談や入居前面接時にはできるだけ話を聞くようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・すぐの入居が困難な場合は、他のサービスを説明するようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居申込時に見学がてら本人と一緒に来ていただくことをすすめている。 ・隣接するデイサービスの利用者の中でGH入居を希望されている方に関しては、時々訪問していただいている。 ・ショートステイ(現状では私的契約)を利用してから入居していただくよう勧めていく。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・家事を一緒にしたり、レクリエーションを行うなど、共に過ごす時間を大切にする中で、本人から生活の知恵を学ばせてもらう機会を持っている。 ・常にコミュニケーションを図るよう心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族の立場も十分踏まえつつ、利用者を一緒に支えていく視点を持っている。 ・家族懇談会を実施している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・これまでの本人と家族の関係を理解することに努め、入居後も関係が保てるように働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・知人の面会は自由にしてもらっている。 ・入居前の馴染みの店に行く機会を持っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者同士の相性などの把握に努め、良好な人間関係が保てるよう努めている。 ・他者と交流できるように声かけをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・サービス利用を終了したケースはない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアプラン作成時には具体的な例をあげて意向の把握に努めている。 ・日頃の会話からも思いをくみ取るようにしている。 ・入居時にセンター方式暮らしの情報シートの記入をご家族にお願いし、生活歴の把握に努めている。普段では聞き取りにくい内容も記入していただいているので、ケアプランに活かしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時にセンター方式暮らしの情報シートの記入をご家族にお願いし、生活歴の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・入居時には家族・担当ケアマネからの情報提供を元に、把握に努めている。 ・毎日の記録を元に現状の把握ができるようにしている。 ・ユニット会議でケース検討を行い、総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人と計画作成担当者、家族と計画作成担当者が話し合っている。 ・計画作成担当者とユニットリーダー、担当支援員が参加してカンファレンスを行っている。 ・看護師を含めて、関係者が一同に会してのカンファレンスを実施する予定がある。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・期間に応じた見直しは定期的に行っている ・入院や介護度の変化はあったものの、状態に大きな変化が見られなかったため介護計画を緊急で見直した事例はない。	○	・入院や介護度の変更があった場合は必要に応じて緊急の見直しを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護日誌に日々の様子などを細かく記録している。記録を引き継ぎに利用し、実践に活かしている。 ・記録をモニタリング、介護計画の見直し時に役立てている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・事業所の多機能性(デイサービス、訪問看護、健康づくり・介護予防事業、軽食コーナー)を十分に活かしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地元の民生委員がGHの行事に参加する機会がある。 ・ボランティアを受け入れ、催し物や習字の指導をしていただいている。 ・文化祭に作品を出展したり、演芸を見に行くなどしている。 ・消防署とは合同の避難訓練を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・訪問理美容サービスを利用している。 ・介護保険外で特殊寝台をレンタルしているケースもある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センター主催の研修会に参加している。 ・介護給付費の適正化やケアプランについて指導を受けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・家族付き添いにて、かかりつけ医に継続して受診している。家族の都合が悪い場合は対応している。 ・定期的にかかりつけ医の往診を受けている。 ・体調不良時にはかかりつけ医に電話で指示を受けている。 ・緊急の場合は協力医療機関へ受診している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医との連携を図る。</li> <li>・職員全員での方針の共有や研修が必要である。</li> </ul>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医との連携を図る。</li> <li>・職員全員での方針の共有や研修が必要である。</li> </ul>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あったかサポート実践運動で「人権への配慮」について取り組んでおり、毎月自己評価をしながら、意識を高めている。</li> <li>・個人情報保護についても同様に取り組んでいる。</li> </ul>	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者との会話では傾聴に努め、利用者の意見を尊重するようにしている。</li> <li>・わかりやすい説明をしたり、本人の納得が得られるように支援している。</li> </ul>	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日課は決めておらず「今日は何しましょう？」と問いかけながら日々を過ごしている。</li> <li>・一人ひとりのペースを大切に、無理強いはしていない。</li> </ul>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望があれば行きつけの理美容店に行けるよう支援している。ご家族が連れて行かれる場合もある。</li> <li>・GH内での理美容を利用している利用者も多い。</li> <li>・希望に応じて職員が毛染めをしている。</li> </ul>	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の準備や食事、後片づけは利用者と支援員が一緒に行っている。</li> <li>・誕生日にその人の希望メニューを取り入れている。</li> </ul>	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲酒、喫煙は希望者がいない。</li> <li>・居室に冷蔵庫を設置している利用者もあり、おやつなど自由に飲食している。</li> <li>・好き嫌いにも配慮している。</li> <li>・病的に配慮が必要な場合は、ご家族に協力をお願いしている。</li> </ul>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排尿チェック表をつけながら、一人ひとりに応じた排泄介助を実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・曜日は決めていないが、時間帯は13:30～16:00頃までとなっている。 ・入浴回数については利用者の希望や体調に応じて考慮している。 ・季節感が楽しめるようゆず湯やしょうぶ湯などを取り入れている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中でも眠たくなれば居室に戻って休んだり、眠たそうな利用者には居室で横になるよう声をかけている。 ・夜にはテレビの音量を小さくするなどして落ち着いて就寝できるように配慮している。 ・薬を服用している利用者がいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・生活歴を元に、一人ひとりの趣味、特技などを活かすことができるよう支援してる。 ・レクリエーションの機会も積極的に持つようになっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・小遣いを持つことに制限は設けておらず、買い物の希望にもできるだけ応じている。 ・金庫を持ち込んで通帳などを自分で管理してる利用者もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・日々の散歩や買い物の同行に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・季節の行事やイベントなどに計画的に参加している。 ・家族の付き添いにて外出することもある。 ・利用者から希望があった場合は実行可能な範囲で支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・居室に電話を設置している利用者があり、自由に電話をしている。 ・手紙のやりとりも自由にしていただいております、届いた郵便物は確実に手渡し、書いた郵便をポストに入れるなどを手伝っている。ハガキの購入も希望があれば代行している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会は自由であり、居室で長時間過ごされていることも多い。コーヒータムには一緒のお茶を飲んでいただくなどしている。 ・職員も笑顔で対応するよう心がけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・現状では身体拘束にあたる事例はないが、今後も研修会などの機会を持つ。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室や日中玄関の鍵をかけることはしていない。 ・日頃から鍵をかけないように声をかけ合っている。 ・鍵をかけることへの弊害を説明している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・常に利用者の所在確認に努めている。 ・他部署にもプライバシーに配慮しながら、協力を求めている。 ・門扉から出るとすぐ通行量の多い道路があるため、安全確保のために門扉のセンサー導入が検討されている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・状況により置き場所を工夫するなど、一人ひとりの状態に応じて取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・毎月ヒヤリはっと事例を検討し、事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・新任職員研修で消防署より応急処置や心肺蘇生法、AEDの使い方の講習会を実施したが、今後も定期的な訓練を行っていく。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・近隣の施設間で「福祉村災害時相互応援に関する申し合わせ」を定めている。 ・地域住民に対しての働きかけは行っていない。	○	・運営推進会議を通じて地域の消防団などに協力が得られるよう依頼し、地域住民を巻き込んだ訓練の実施について取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・契約時、またケアプラン更新時には説明している。 ・面会時にも説明している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変の発見に努め、他の勤務職員にすぐ知らせるようにしている。管理者やリーダーにもすぐ報告するようにしている。 連絡ノートや日誌で情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬時には名前の確認など細心の注意を払っている。 ・変更や追加になった薬については目的や副作用などを理解するように努めているが、薬説明書を活用するなどし、薬についての知識を深めていきたい。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・便秘が及ぼす影響を理解の上、水分を多めに取ってもらったり、ヨーグルトの摂取を促している。また身体を動かすように働きかけている。 ・排便チェックを行い、服薬の調整をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後歯磨きの声かけや口腔ケアを実施している。 ・定期的に入れ歯洗浄剤にも浸けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べる量は一人ひとりの食べっぷりや希望を聞きながら調節している。必要に応じて刻んだり、トロミを使用するなどの対応をしている。</li> <li>・献立は同法人の特養の献立を参考にしながら、栄養バランスを考えている。</li> <li>・水分摂取量は毎日記録し、居室にペットボトル、急須などにお茶を入れ、いつでも飲めるようにしている。</li> </ul>		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルが整備されている。</li> <li>・現在はノロウイルス対策で毎日消毒を行っており、外来者への手洗いの徹底を呼びかけている。</li> <li>・インフルエンザの予防接種を利用者・職員の全員が受けている。</li> <li>・食堂に除菌水生成噴霧器を設置している。</li> <li>・体調不良の職員は出勤せずに管理者の指示を仰ぐよう徹底している。</li> </ul>		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理するものは手洗いなど特に気を配っている。「調理従事者の心得」を目のつくところに掲示している。</li> <li>・毎日ハイターでまな板を消毒している。フキンなども定期的に消毒している。</li> <li>・毎日買い物に行き、新鮮な食材を使用している。食材の賞味期限に気を配っている。</li> </ul>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物周辺はバリアフリーである。</li> <li>・玄関・建物周辺に季節の物を飾ったり、花を生けたりする。</li> </ul>		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節に応じて置物を置いたり、花を飾るなどしている。</li> <li>・利用者の書いた習字や利用者が折った折り紙を貼るなどしている。</li> </ul>		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たたみのコーナーを2カ所設けており、憩いの場所、団欒の場所となっている。</li> </ul>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みの家具などを持ち込んでいただくようお願いしており、一人ひとりに応じたしつらえとなっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・随時換気に努めている。また各居室には加湿器を設置している。エアコンの温度調節もこまめに行っている。 ・各居室の温湿度計を設置する予定である。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内部はバリアフリーであり、車いすの利用者も自由に移動できる。 ・利用者に応じてベットやベッド柵の位置を考慮したり、滑り止めマットを使用するなどして、安全かつ自立した生活が送れるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・不安や混乱の原因となるものは極力取り除いたり、目につかないように工夫をしている。 ・トイレの場所を表示したり、文字の読める利用者に対してはお願い事を紙にかいて貼るなどしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・中庭に小さな畑があり、利用者と一緒に野菜や花を育てている。 ・建物周辺は散歩や催しもの際に活用している。 ・天気の良い日はウッドデッキでひなたぼっこをするなどしている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 昼食前には口腔体操を実施し、嚥下機能の維持に努めている。
- ・ 家族との連絡を密に取り、利用者と家族との関係がたもてるように働きかけている。
- ・ 調理の手伝いや掃除など、利用者のもてる力をできるだけ発揮できるようにしている。
- ・ 脳リハ練習帳に取り組み、コミュニケーションを介しながら、認知症の進行防止に努めている。
- ・ 健康づくり・介護予防施設（とらふす道場）に定期的に通い、身体機能の維持を図っている。